

# 牧野(淀川上流)探鳥会 2017年5月度

2017.5.7(第1日曜日) 9:00~14:00 日本野鳥の会大阪支部

担当 平 軍二(☎090-6901-1425) (Eメール [g-hira@nifty.com](mailto:g-hira@nifty.com))

南 茂夫、前田 初雄、甲田 照二、斎藤 健、西脇 淳浩

淀川河川敷は春一色、樹林ではウグイスの「法法華経」、草原ではオオヨシキリの「行々子」、そして時にはキジの「ケーン・ケーン」が聞こえてきます。山地では樹林からウグイスが囀りを聞いても姿が見えないので、探す気がおきませんが、牧野では囀るウグイスの姿を見る楽しみがあります。



ウグイス 110405(斎藤博氏)

## 1. 先月(17年4月)の探鳥会から

コースではウグイスの法華経が切れ目なし、シジウカラ・カラヒワのさえざり、キジの雄たけび、枯れた竹をドラミングするコゲラも加わって春の歌が続きました。上空は移動の途中と思われるダイサギ 20羽以上の群、ノスリ・ミサゴ・トビや、セグロカモメ・ユリカモメなどでにぎわい、地上もベニマシコが何回も観察できるなど、快晴の探鳥日和に参加して下さった49名の方々には、先月58種に続く57種もの鳥を楽しんでいただくことができました。

## 2. 牧野探鳥会の野鳥(オオヨシキリ)

牧野探鳥会でシジウカラ・ウグイスなど山野の鳥の姿が良く見られるのは嬉しいのですが、最も期待したいのは草原の鳥です。オオヨシキリはその代表選手の1種、越冬地の東南アジアから4月、日本に渡ってきて子育てをし、9月には南に帰っていく夏鳥なので、5月の牧野探鳥会では主役になってくれます。

オオヨシキリは雌雄同色で背面は緑褐色、腹面は淡褐色で、白い眉斑があり、全長18.5cmの細長く見える鳥。ヨシ原でさえざっているときは、赤い大きな口を開けて「ギョギョシ・ギョギョシ」と鳴いてくれるので、個々の識別点を意識せずにオオヨシキリとわかります。ギョギョシは「行行子」と漢字で表記され、夏の季語として良く知られています。

食べものは動物食(昆虫類が中心)ですが、ヨシを切り裂いて中にいる獲物を捕食するとされ、種名オオヨシキリの由来となっています。

カッコウはオオヨシキリの巣に托卵する鳥ですが、最近、牧野でカッコウを見ることがなくなっているのは、淀川河川敷の木が大きく育ち、林の鳥が増えているため草原環境が少なくなり、その上宿主となっているオオヨシキリの生息数が減ったからでないかと、勝手に推定しています。

## 3. 自転車対策+トイレ問題

牧野探鳥会で最も気をつけていただきたいのは「**自転車と衝突しない**」、交通事故に対する自己防衛です。自転車のスピードが早いので、万一衝突事故があると怪我をするのはバードウォッチャーと思います。鳥を見るために道路を横切るときは、**小学1年生の気持ちになり「前後左右」**の安全を確かめてから横断してください。探鳥会の時間は保険に入っていますが、痛みは補償しません。

また、コース内のグランドに**簡易トイレが2ヶ所ある**ものの、正式なトイレは、終了時の鳥合わせ場所にあるのみです。この点もご留意ください。

## 4. 河川敷の樹林の今後は未確認

昨年度、探鳥コースとなっている緊急用道路の両側5m幅で伐採するといわれていたものの、切断されずに今年度に入りました。そのこともあって、冬~4月の探鳥会で60種近い鳥が観察できました。淀川河川事務所管理課の担当窓口の方が交代されたこともあり、近日中にお伺いし、本年度計画を確認したいと思います。

## 5. 次回6月度は6月4日(第1日曜日)

6月は淀川河川敷(牧野)で生まれた鳥の子供たちに会える季節です。初夏の陽射しは、思いのほか強いので、熱中症対策を十分にしてお楽しみください。



オオヨシキリ 120519(斎藤博氏)



鳥を見ている後に自転車部隊 170402

